

プレミアムジアと他の除菌剤との違いは？

	濃度	安全性	除菌力	除菌スピード	消臭力	防臭力	保存性	非金属腐食性	非漂白性
アルコール系	70~80% 注1	○	◎注2	◎	×	×	○	◎	◎
【食添】 次亜塩素酸 ナトリウム	200ppm	◎	◎	◎	△	◎	×××注3	×	×
【高濃度】 次亜塩素酸 ナトリウム	40,000~ 60,000ppm	△ 取扱注意	◎◎	◎	△	◎	×××注4	×××	×××
次亜塩素酸水	200ppm	◎	◎◎	◎	△	◎	×××注3	×××	×
二酸化塩素 水溶液	50ppm	○ ただし高濃度の 場合は毒性強	◎◎◎	◎	○	◎	×××注3	×	×
プレミアムジア	50ppm	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎

注1) アルコールの除菌力を発揮する濃度は70~80%といわれており、その範囲以外の濃度の場合での除菌力は著しく低下します。

注2) アルコールは幅広いウイルス、菌への除菌効果を有しますが、唯一ノロウイルスを代表とするノンエンベロープウイルス類への除菌効果はありません。

注3) 一般的な次亜塩素酸ナトリウム、二酸化塩素は揮発性が高く1~3か月(濃度による)しか保存できません。

次亜塩素酸水(電解水)は100ppm以下の場合、数時間から数日以内に有効塩素濃度が揮発する為、正確な効果を期待することは難しいです。

注4) 高濃度次亜塩素酸ナトリウムは1年で約10,000ppmの濃度が減少します。

除菌力・安全性・保存性・利便性
全ての項目を高次元でクリアしているのは
プレミアムジアだけ！

プレミアムジアの安全性と除菌力 [試験データ]

(財) 日本食品分析センター調べ/第11001086001-05号、同-06号、同-08号

試験菌	対象	生菌数 (/ml)				開始時	15秒後	30秒後	1分後
		開始時	15秒	30秒	1分				
VRE 〔バイコマイシン〕 耐性腸球菌	検体	1.1×10^6	<10	<10	<10				
	対照	1.1×10^6	-	-	1.0×10^6				
肺炎桿菌	検体	6.3×10^5	<10	<10	<10				
	対照	6.3×10^5	-	-	5.7×10^5				
レジオネラ	検体	2.3×10^7	5.0×10^5	6.3×10^3	<100				
	対照	2.3×10^7	-	-	1.9×10^7				
リステリア	検体	6.5×10^5	<10	<10	<10				
	対照	6.5×10^5	-	-	6.1×10^5				
緑膿菌	検体	1.0×10^5	<10	<10	<10				
	対照	1.0×10^5	-	-	1.1×10^5				
サルモネラ	検体	6.8×10^5	<10	<10	<10				
	対照	6.8×10^5	-	-	5.7×10^5				
黄色ブドウ球菌	検体	3.2×10^5	30	<10	<10				
	対照	3.2×10^5	-	-	4.0×10^5				
MRSA 〔メチシリン耐性〕 黄色ブドウ球菌	検体	1.4×10^6	<10	<10	<10				
	対照	1.4×10^6	-	-	1.0×10^6				
表皮ブドウ球菌	検体	7.3×10^5	2.3×10^5	10	<10				
	対照	7.3×10^5	-	-	7.7×10^5				

試験菌	対象	生菌数 (/ml)				開始時	15秒後	30秒後	1分後
		開始時	15秒	30秒	1分				
レンサ球菌	検体	6.7×10^5	<10	<10	<10				
	対照	6.7×10^5	-	-	5.8×10^5				
腸炎ピブリオ	検体	4.6×10^5	<10	<10	<10				
	対照	4.6×10^5	-	-	4.9×10^5				
試験菌	対象	生菌数 (/ml)				開始時	30秒後	1分後	3分後
		開始時	15秒	30秒	1分				
大腸菌O-157 ベロ毒素生産株	検体	1.3×10^5	<10	<10	<10				
	対照	1.3×10^5	-	-	1.3×10^5				
試験ウイルス	対象	TCID50/ml				開始時	30秒後	1分後	3分後
		開始時	15秒	30秒	1分				
ノロウイルス (ネコカリシウイルス)	検体	3.2×10^6	<32	<32	<32				
	対照	3.2×10^6	-	-	3.2×10^6				

ノロウイルスは、写真撮影出来ません。

安全性試験 結果

(財) 日本食品分析センターにてウサギを用いた眼刺激性試験、皮膚一次刺激性試験、また雌マウスを用いた急性経口毒性試験においてヒーズガードの安全性が実証されました。
(財) 日本食品分析センター調べ 第11001086001-03号、同-04号、同-07号

ウサギを用いた 眼刺激性試験			ウサギを用いた 皮膚一次刺激性試験		雌マウスを用いた 急性経口毒性試験	
平均合計評点の最高値	区分		一次刺激性インデックス	反応カテゴリー	本剤を20ml/kgの投与容量で強制経口投与。対照群は、注射用水を投与した。観察期間を14日間とし、死亡例、一般状態、体重変化を観た。	
0~5.0	無刺激物		0~0.4	無刺激性	判定	すべての試験動物で異常は見られなかった。
5.1~15.0	軽度刺激物		0.5~1.9	弱い刺激性		
∴	∴		2~4.9	中等度の刺激性		
80.1~110.0	強度刺激物		5~8	強い刺激性		
判定	0	刺激なし	判定	0	刺激なし	

ウイルスに対する不活化効果試験

(財)畜産生物化学安全研究所 2009/4

感作時間(分)		ウイルスの単位PPU/ml	0分	1分	3分
インフルエンザウイルス	対照群	平均値	5.83×10^4	1.05×10^5	9.00×10^4
		対数変換値	4.77	5.02	4.95
	試験液	平均値	<10	<10	<10
		対数変換値	<2.00 ²	<2.00 ²	<2.00 ²
		LRV	>2.8	>3.0	>3.0
		%表示	99.72%	99.90%	99.90%
コロナウイルス	対照群	平均値	5.4	5.3	5.5
	試験液	平均値	≤ 1.50	≤ 1.50	≤ 1.50
		LRV	≥ 3.9	≥ 3.8	≥ 4.0
		%表示	99.981%	99.972%	99.990%
		対照群	平均値	5.7	5.8
パルボウイルス	試験液	平均値	3.4	≤ 1.50	≤ 1.50
		LRV	2.3	≥ 4.3	≥ 4.2
		%表示	99.270%	99.927%	99.9918%

安全性能

検体名	結果	検査機関
マウス局所刺激性試験(皮膚)	異常なし	(社)東京食品技術研究所
マウス局所刺激性試験(眼粘膜)	異常なし	(社)東京食品技術研究所
マウス急性毒性試験(経口)	異常なし	(社)東京食品技術研究所

ウイルス不活化・除菌性能

検体名	結果	検査機関
インフルエンザウイルス	ウイルス不活化効果実証	(財)畜産生物科学安全研究所
パルボウイルス	ウイルス不活化効果実証	(財)畜産生物科学安全研究所
コロナウイルス	ウイルス不活化効果実証	(財)畜産生物科学安全研究所
ノロウイルス	効果実証	ビジョンバイオ㈱
大腸菌	効果実証	(社)京都微生物研究所
黄色ブドウ球菌	効果実証	(社)京都微生物研究所
緑膿菌	効果実証	(社)京都微生物研究所
MARS	効果実証	(社)京都微生物研究所
サルモネラ菌	効果実証	(社)京都微生物研究所
腸炎ビブリオ	効果実証	(社)京都微生物研究所

抗アレルギー物質性能

検体名	結果	検査機関
スギ花粉アレルギー	低減効果実証	ITEA株式会社 東京環境アレルギー研究所
ダニ(コナヒョウダニ)アレルギー	低減効果実証	ITEA株式会社 東京環境アレルギー研究所